

サマーフェスティバルを問う

小山 典男 議員（自民）

町長 イベント内容の充実には協力していく



質問 今年も8月14日に第14回みずほサマーフェスティバルが役場周辺で行われた。新しい試みとして太田真由さんのミニライブ、あきる野の「瀬音の湯」による足湯コーナーが併設された。

町長 サマーフェスティバルは、瑞穂町観光協会の主催事業であり、町内外から多くの人々が集う町の大切な行事となっている。来年第15回目を迎えるが、特別に記念する行事は10年ごとの節目に行うこととし、記念事業は予定していないと聞いている。しかし、多くの人がより楽しめる行事にすべきとの質問の趣旨は理解でき、観光協会をはじめ商工会並びに各種団体とも連携を図りながら、イベント内容の充実には協力していく。



新しい試みの「瀬音の湯」足湯コーナー

多摩都市モノレール 今後の展望

高水 永雄 議員（自民）

町長 要請活動を強化し、道路空間の確保に努める



質問 町民は、公共交通機関である多摩都市モノレールの延伸が早期に実現することを願っている。都は、新青梅街道の上北台から箱根ヶ崎までを交通渋滞緩和策として、拡幅を都市計画決定し、関係者に説明し調査する予定であるが、多摩都市モノレール株式会社は、経営上初期投資の負担で苦しんでいる現状である。早期の着工を実現するには、町も十分な協力体制を構築すべきと思うが、町長の所見を伺う。

町長 町は、議会とも連携し、駅までの早期延伸の要請活動を続けている。また、東大和市・武蔵村山市との共同要請活動も復活し、強化する体制が構築された。新青梅街道拡幅再整備は、モノレールの導入空間の確保を意味するものでもあるため、殿ヶ谷土地地区面整理事業を推進し、拡幅道路空間の確保に努めている。公共交通網の整備・拡充は、将来の町発展に欠かせないものであり、今後も議会と協力しながら一日も早い実現を目指していく。



新青梅街道沿いに設置された看板

町長 町は、議会とも連

町独自の葬祭場（式場）建設を

石川 修 議員（自民）

町長 組合として対処すべきで、町単独では整備しない



瑞穂斎場の中式場

質問 町には、4市1町の一部事務組合で運営する瑞穂斎場がある。式場は大・中・小の3式場があるが、17年の武蔵村山市加入などにより、ここ数年、中・小式場の利用率はほぼ100%、大式場についても91.4%と利用者が増加している。申込みから一週間、10日も待たなければ通夜・葬式ができない現状もある。長きにわたり生まれ育ったこの町で終焉を迎える施設、町独自の葬祭場を建設すべきと思うが、町長の所見を伺う。

町長 待機日数の長期化は、町だけではなく、組合構成市の需要に大きく影響されることから、構成市町全体で調整されるべきものであり、町単独で葬祭式場を整備するつもりはない。

瑞穂斎場組合においても、待機日数の実態や需要の推移を把握しているため、今後、主に高齢人口の増加によって新たな葬祭式場が必要となった場合には、一部事務組合として対処すべきである。

災害時の防災協定について問う

小川 龍美 議員（公明）

町長 地域の一員としての協力に、理解を求めたい



防災訓練（三小）

質問 近年、国内外で大地震などの災害が多発しました。地球温暖化現象によるゲリラ豪雨や土砂災害もふえています。大規模災害の復旧には自衛隊や消防団始めさまざまな機関や団体の応援が必要となる。その中で、即座に対応できる地元の建設業協会や、災害時の情報ツールとして、地域密着型放送局「FM茶笛」などは重要な役割を果たすと考える。これらの機関や団体と防災協定を結ぶことは大変有効と考えるが、町長の所見を伺う。

町長 近年、国内外で大地震などの災害が多発しました。地球温暖化現象によるゲリラ豪雨や土砂災害もふえています。大規模災害の復旧には自衛隊や消防団始めさまざまな機関や団体の応援が必要となる。その中で、即座に対応できる地元の建設業協会や、災害時の情報ツールとして、地域密着型放送局「FM茶笛」などは重要な役割を果たすと考える。これらの機関や団体と防災協定を結ぶことは大変有効と考えるが、町長の所見を伺う。

こんな質問もありました 「脳脊髄液減少症」の周知と実態把握は。

町長 学校だよりや保健だよりなどを活用して保護者に周知し、医師会とも連携していく。